



鼠ヶ関灯台利活用推進プロジェクト（灯台×リトリート）

コンソーシアム名：鼠ヶ関灯台利活用推進委員会

対象灯台：鼠ヶ関灯台（山形県鶴岡市）

調査検証報告

鼠ヶ関灯台（山形県鶴岡市）

コンソーシアム名

鼠ヶ関灯台利活用推進委員会

構成団体

株式会社SIGNING、特定非営利活動法人自然体験温海コーディネート、
みなとミライねずがせき企業組合、鼠ヶ関自治会

鼠ヶ関灯台利活用推進プロジェクト

1.調査・検証概要

調査検証を構想した背景

◎鼠ヶ関灯台は、山形県唯一の避難港である鼠ヶ関港に位置する灯台。
鼠ヶ関は大小の島々に囲まれ、波が穏やかな場所であったことから江戸時代から北前船の寄港地としても栄え、歴史的な要所でもある。

▲全国的な知名度は低く、鶴岡駅から車で40分というアクセスの悪さにより、訪れる人も少ない。
美しい灯台の眺めのほか、穏やかな海水浴場や、そこで楽しめるマリナクティビティ、新鮮な海産物といった観光資源があるにもかかわらず、活かしきれていない状況が課題である。

鼠ヶ関とつながりが深く、観光客の多いあつみ温泉が車で15分の立地にあるにもかかわらず、人流がそこで止まってしまっている現状を、灯台の利活用によって変えていけないかを検討。
あつみ温泉の利用者層（30~40代夫婦）をメインターゲットに、調査検証によって、人流をつくる可能性を探り、灯台を訪れる人を増やしていきたい。



鼠ヶ関灯台

2.調査検証の目標～明らかにしたい仮説

仮説のメインテーマ：「灯台×リトリート」事業を開発。
鼠ヶ関灯台の100周年を記念するイベントを実施し、そこで実証実験を行う。

「鼠ヶ関灯台」の歴史的価値・魅力を明らかにし、
それを生かしたコンテンツを創造し、地域活性化を狙う。

survey 01

鼠ヶ関灯台の基礎調査

- ①現地調査
灯台周辺の建物の歴史等の調査
- ②文献調査（灯台資料館が所有する資料に関する調査）
あかねいろの空
燈光会冊子
鼠ヶ関灯台にまつわる文献
- ③ヒアリング調査
酒田海上保安部の方
地域の方々（漁港関係者、神主、ほか）
- ④専門家へのインタビュー調査
不動まゆうさんにこれまでの調査を踏まえ、知見をいただきつつより深い調査を行うためのインタビューを実施
- ⑤意識調査
写真・絵画募集
市民・観光客アンケート



survey 02

鼠ヶ関灯台活用事業の試験実施

- ①波の揺れや灯台の光と呼应するオーシャンメディテーションカヤック
- ②鼠ヶ関灯台を眺めながらサウナを楽しむイベント
- ③海上保安庁の協力を得てイベントを実施した3日間、灯台を開放





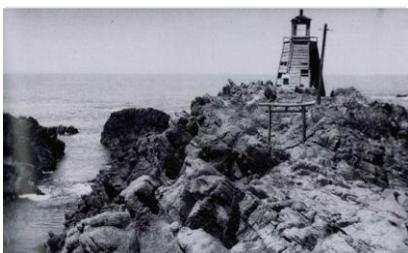
ねずがせきとうだい

鼠ヶ関灯台

基礎
データ

初点灯	1925年4月1日
灯台の高さ	14.1m
灯りの高さ	21m
灯質	10秒で2回白い光
光達距離	約22km
レンズ	第六等閃光レンズ
構造	コンクリート造
形状	円筒形
設計者	不明

設置された経緯



大小の島々に囲まれ、古くから波が穏やかな地域であり、北前船の寄港地となっていた経緯から、1922年に鼠ヶ関港が内務省指定港湾に指定され、その3年後、木造の鼠ヶ関灯台が建てられる。その後、1947年に鼠ヶ関港が山形県唯一の避難港となったことから港の重要性が増し、1951年にコンクリート製に建て替えられる。さらに1978年に細い灯台から太い灯台へと形を変える。2023年に改修工事がなされ、中が螺旋階段となり一般の人でも登りやすい灯台へと進化した。

関係者インタビュー（抜粋）



ベテラン漁師
佐藤喜久蔵さん

大瀬と呼んでる魚の集まる海底の山があって、このあたりの漁師はみなそこを目掛けて船を出しました。夜だとあたりは真っ暗で自分の居場所がわからなくなるのですが、駅の灯りと灯台の光だけは船からよく見えて、その2点の距離で自分がどれだけ港から離れたのかを測ってました。鼠ヶ関灯台は私たち漁師にとって欠かせない光です。



灯台専門フリー
ペーパー編集長
不動まゆうさん

鼠ヶ関灯台の特徴はなんといっても立地の珍しさにあります。弁天島のうえにそびえ立つ灯台の佇まい、灯台のすぐふもとにある赤い鳥居は、灯台ファンであれば誰もが写真を見ただけで識別できます。大きな灯台でないにも関わらず、内部が螺旋階段構造になっているのも珍しく、地域に大切にされている灯台であることが伝わってきます。

「再出発」を見守る灯台

避難港。それは荒天に見舞われた船が立ち寄り、再出発にむけて旅支度を整える場所。
山形県鶴岡市の鼠ヶ関港も、大小の島々に囲まれた地形により波が非常に穏やかであったため、

江戸時代から「避難港」として繁栄した場所だった。

人々をより安全に避難させられるようにと、大正時代に灯台も建設された。
以来、鼠ヶ関灯台はどんな荒天の日でも多くの船を導き、その再出発を照らす。

鼠ヶ関灯台が照らしてきたのは、船の再出発だけではない。

灯台のふもとには、航海安全の神様が祀られている社がある。

地元の人も、灯台を訪れた人も、みなここで手をあわせ心を整えて、生活に戻る。

初点灯から100年の月日がたった今でも、

避難港の灯りとして、また人々の心の拠り所として、海と人を照らしている。



鼠ヶ関灯台100周年記念祭を実施

鼠ヶ関灯台初点灯からちょうど100年であるタイミングを利用して、記念式典を実施。今回新たに開発した事業の実証実験の場にするとともに地元の方々や海上保安庁の協力を得て、鼠ヶ関灯台に関する展示や実際に灯台内部の開放を行い、多くの人に灯台を身近に感じてもらえるイベントとなった。



灯台サウナを開発

今回新たにテントサウナを購入。灯台を眺められるビーチのシャワー施設の屋上を改装し、灯台サウナを開発した。100周年記念祭で実際に試験運用し、多くの若者に楽しんでもらうことができた。



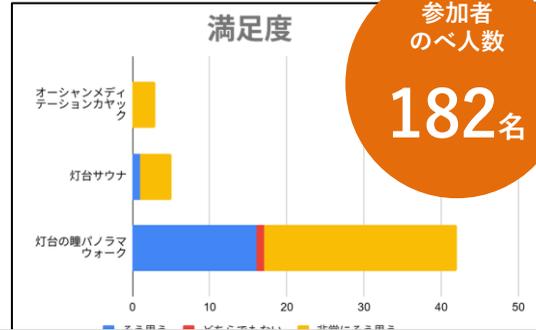
海の上での瞑想・オーシャンメディテーションカヤックを開発

東京で活躍するヨガインストラクター木村匠さんにアドバイザーとして協力を仰ぎ、灯台をみながらカヤックのうえで瞑想するオーシャンメディテーションプログラムを開発。灯台の光や波のゆらぎをつかった独自の内容を取り入れ、ここでしかできない体験を生み出した。



鼠ヶ関灯台にまつわる写真・作品展を実施

鼠ヶ関灯台100周年記念祭実施に際して、地域の住民に呼びかけ、鼠ヶ関灯台にまつわる写真や作品、エピソードなどを募集し、イベント当日に展示した。地域外の人に鼠ヶ関灯台のことを知ってもらう機会になっただけでなく、住民たちにとっても100年の歩みを振り返るきっかけとなった。



満足度95%以上を獲得

事業のさらなる改善に活かすため、参加者に対して満足度アンケートを実施。結果、いずれのコンテンツでも95パーセント以上の方に「満足」以上の評価をつけていただくことができた。



灯台に関する歴史を調査・編纂

灯台の100年の歩みをインタビューや文献によって改めて調査。鼠ヶ関灯台100周年記念祭では調べたことをまとめた年表をイベント会場に掲出。事業にも活かすために、現在も調査を継続している。

課題

これまでは灯台を訪れるきっかけを作れていなかった。

◆今回のイベントを経て、灯台にきちんと集客をすることができたことから、機会さえ作れば人を呼び込めることがわかった。



施策

今後さらに灯台の観光地としての魅力を高める。

◆100周年イベントを実施するなかで、地元の人々や海上保安庁の方々も巻き込み、灯台への関心を高めた。
◆今回の取り組みを機に、灯台に登れる機会を増やしたり、誰でも登れる工夫をするなど、灯台の観光地としての魅力を高める。

課題

地元のお店などへの周遊施策をもっと増やせる余地があった。

◆ビーチ周辺や灯台への集客には成功したが、まち全体をもっと巡ってもらえる工夫をすれば、より地域活性化につながった。



施策

灯台やビーチと地元の商店をつなげる仕組みを作り点ではなく面での観光誘客を実現する。

◆今回のイベントを機に、地元の方々の巻き込みをさらに広げ、地元のお店や民宿と灯台を連携させることで、まち全体を巡ってもらうための仕掛けづくりをする。

◆駅前の灯台の像をもっとアピールするなど、町中にある灯台モチーフの存在感を高め、灯台だけでなく、灯台をアイコンに街全体をブランディングしていく。



2025年9月20日、21日、22日 【場所】鼠ヶ関灯台 など

鼠ヶ関灯台利活用推進委員会は、2025年9月20日（土）、21日（日）、22日（月）に「鼠ヶ関灯台100周年記念祭」を開催いたしました。山形県鶴岡市に位置する鼠ヶ関灯台は、人々の暮らしと海の安全を見守り続けています。そんな鼠ヶ関灯台が、今年、点灯100周年という大きな節目を迎え、この記念すべき年をみなさまでお祝いするべく実施いたしました。このイベントは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、灯台を中心に地域の海の記憶を振り返り、地域と地域、異分野と異業種、日本と世界をつなぎ、新たな海洋体験を創造していく「海と灯台プロジェクト」の助成を受けて実施したものです。



0 ツイート Clip to Evernote

ソーシャルアクションネットワーク



2025年9月20日、21日、22日 【場所】鼠ヶ関灯台 など

鼠ヶ関灯台利活用推進委員会は、2025年9月20日（土）、21日（日）、22日（月）に「鼠ヶ関灯台100周年記念祭」を開催いたしました。山形県鶴岡市に位置する鼠ヶ関灯台は、人々の暮らしと海の安全を見守り続けています。そんな鼠ヶ関灯台が、今年、点灯100周年という大きな節目を迎え、この記念すべき年をみなさまでお祝いするべく実施いたしました。このイベントは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、灯台を中心に地域の海の記憶を振り返り、地域と地域、異分野と異業種、日本と世界をつなぎ、新たな海洋体験を創造していく「海と灯台プロジェクト」の助成を受けて実施したものです。

のべ41媒体

調査検証をふまえた 今後の展開案

事業背景1

ポテンシャル

- 鼠ヶ関港は大小さまざまな島に囲まれた立地により波が非常に穏やかな場所であったため江戸時代から北前船の寄港地になるなど、船乗りたちにとっての要所。大正時代に内務省指定港湾に指定され港の重要性が増し、灯台も作られた。
- 鼠ヶ関灯台が立つ弁天島には海の神様と呼ばれる金刀毘羅様が祀られており、地元の人々にとって神聖な場所となっている。
- 鼠ヶ関港は現在でも山形県唯一の避難港であり、鼠ヶ関灯台のまわりでは穏やかな波を活かしたバリアフリービーチ、充実したマリナクティビティがある。

事業背景2

私たちが取り組む理由とねらい

- 鼠ヶ関灯台の避難港の灯台としての歴史をふまえ、「人の心を避難させる灯台」としてのリブランディングを図り、観光的側面での灯台の付加価値をつくりたい。また、近くにバリアフリービーチがあることや、障害者の支援団体とのつながりがあることを活かし、灯台もだれもが訪れられる場所にしていきたい。
- 鼠ヶ関灯台のリブランディングによって、他の地域から注目を高めることで、地域の人にとっての灯台への愛着も高めたい。
- 鼠ヶ関灯台を観光地として発展させることによって、近隣の観光地との連携をすすめ、鼠ヶ関への人流をつくりたい。

事業概要

鼠ヶ関灯台利活用推進プロジェクト 「だれでも灯台(仮)」リトリート事業

避難港の灯台としての歴史をふまえ、鼠ヶ関灯台を「あらゆる人の心を避難させる灯台」としてリブランディングし、灯台のもとでサウナや瞑想といった、人の心身の回復を助けるようなリトリートコンテンツを実施。灯台を活用したリトリートという、灯台のあらたな楽しみ方を提示するとともに、灯台をだれもが訪れることができ、ほっとできる場所に生まれ変わらせていきたい。



事業名：鼠ヶ関灯台利活用推進プロジェクト 灯台リトリート事業



熱源となる人たち
(核となる主体者)

**特定非営利活動法人
自然体験温海コーディネット**
鼠ヶ関の観光資源を活かしたプログラムを提供しながら地域の魅力の伝搬に取り組むと共に事業の中核を担う

みなとミライねずがせき企業組合
海浜公園や海水浴場を繋ぎ
面展開を後押し

鼠ヶ関自治会
地域住民の理解促進や
地域内施設等の調整と参加を促す



熱源を支える人たち
(その他の主体者)

**テレビユー山形
海と日本プロジェクトin山形**
本企画の取材・情報発信・動画制作を通して記録物を残すとともに灯台の取り組みの認知向上を目指す

株式会社夕陽コミュニティ
鼠ヶ関IC隣接地に移転整備する新たな道の駅の運営事業を担うグループ企業イベント開催や商品開発により認知度を高める

株式会社SIGNING
山形大学をはじめ鶴岡市に拠点を置く団体との連携企画を活かし、
広告代理店という立場から
鼠ヶ関灯台を盛り上げていく



協力者

**あつみ観光協会
鶴岡市温海庁舎**
観光で近辺を訪れる方に対してのPRや人流形成の支援

一社) 山形バリアフリー観光ツアーセンター
灯台のユニバーサル化を実現させ、
一歩前に進んだ事業に飛躍させる

株式会社ハイスタッフ
地元の理を活かした
イベントの企画・運営を担う

事業名：鼠ヶ関灯台利活用推進プロジェクト 灯台リトリート事業

新たな灯台利活用モデル事業が定義する「自走化4分類」のうち、本事業は以下を目指します

本事業が 目指す型	分類	自走化の方法	中心となる事業者
	I ビジネス型	灯台および付属施設等をホテルなどに利活用する、 または 灯台および周辺地域の魅力をコンテンツとして利活用することで、 <u>ビジネスとしての収益化を達成し、自走する。</u>	民間事業者
✓	II 非営利 収支均衡型	灯台及び周辺施設等を活用し、 イベント開催や観光ガイド等を組織しながら、主として、 <u>収支均衡となるような小規模の地域活性化事業を行い、 非営利団体として、自走する。</u>	非営利任意団体、 NPO等
	III 自治体 補助金型	自治体が主体となり、 新たに地域課題や観光資源の一つとして 灯台及び周辺施設等を位置づけることにより、 <u>自治体の予算やリソースが投入され、自走する。</u>	自治体
	IV お祭り協賛型	灯台に係るイベントを開催することで、 灯台を含むエリアの新たな価値と集客・PR効果を創造し、 <u>地元自治体や地域企業からの協賛金や、出店料、 参加者から入場料などの イベント収益によって、自走する。</u>	イベント事業者、 放送局

調査検証資料

今回の調査で新たに灯台の歴史に関する知見やエピソードを収集。

- ①鼠ヶ関灯台の年表を制作し、情報を整理。昔の写真や文献等も収集することができた。



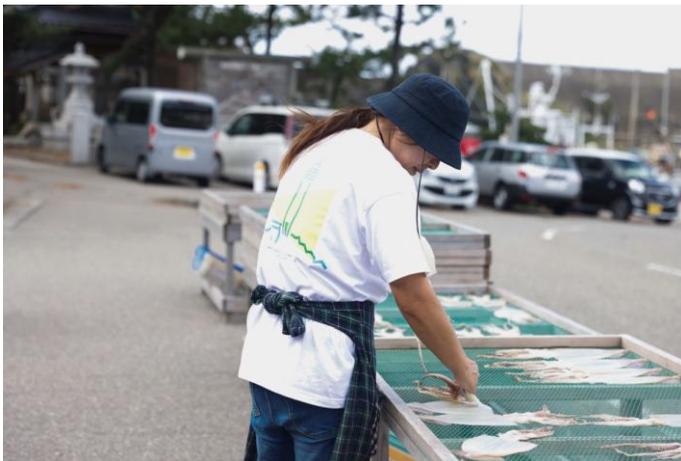
- ②「再出発を見守る灯台」にまつわるエピソードの発見

調査の過程で、弁天島にまつわる新たなエピソードを発掘した。

弁天島には灯台下の祠に加え、複数の祠が点在しているが、いずれもかつて海に関わる家業を営んでいた村民が、自宅から移設したものであることが判明。鼠ヶ関では、家業を海にまつわるものから別の生業へ移す際、海に関する祠を弁天島へ移設する風習があったという。

近代化によって職業が多様化するなか、人々は感謝を込めて祠を弁天島へ移し、灯台がそびえる弁天島はまさに鼠ヶ関の人々の再出発を見守ってきた場であったことが明らかになった。

リブランディングに際してロゴを開発。Tシャツや広報物に。



Tシャツはグッズとしても販売。
想定よりも多くの方に購入いただいた。

地域の方々にご協力いただき、ポスターや
タペストリーをあらゆるところに掲出。

ステッカーも制作し、イベント参加者に配布。

実証実験により今後の展開に活かせる動画・写真の広報素材を確保



サウナ・オーシャンメディテーションカヤックを実際に体験している様子を写真・動画で多数撮影